

Everett

DIGITAL PIANO
DP-60

取扱説明書

このたびは、エベレットデジタルピアノDP-60をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

CONTENTS

●	取り扱い上の注意	1
●	デジタルピアノの組み立てかた	2
●	各部の名称とはたらき	4
	さあ！弾いてみましょう	5
	いろいろな効果や機能を活用しましょう	6
	デモ演奏を聴いてみましょう	6
	ペダル効果	6
	リバーブ効果	7
	デュアル機能	7
	移調機能	8
	音程の微調整	9
	楽譜の読みかた	10
	弾き語り講座	11
	練習曲	13
	MIDIで楽しみましょう	15
	MIDIインプリメンテーションチャート	23
	仕様	24
	サービスと保証	25

取り扱い上の 注意



設置場所

次のような場所でご使用になりますと、故障などの原因となりますのでご注意ください。

- ・窓際などの直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど極端に熱い場所
- ・温度の特に低い場所
- ・湿気やホコリの多い場所
- ・振動の多い場所



お取り扱い

次のようなご使用は、故障や、外装を傷める原因となりますのでご注意ください。

- ・物をぶつかけたり、上に乗るなど、乱暴に扱う。
- ・汚れた手や濡れた手で触る。
- ・キーカバーを乱暴に脱着する。
- ・折りたたみ式譜面立てを乱暴に立てたり、倒したり、中間位置で放置する。
- ・ボタンやスイッチ類に無理な力を加える。
- ・デジタルピアノの内部を開けたり、改造することは事故や故障の原因となりますので、絶対にしないでください。改造後の保証はいたしかねます。



デジタルピアノの上にもものを置く場合のご注意

次のようなものをデジタルピアノの上に置きますと、水がこぼれて故障の原因になったり、外装を傷める原因となりますのでご注意ください。

- ・水の入った花瓶や鉢
- ・塩化ビニール加工された表紙の本、ビニール製品、プラスチック製品
- ・誤って水やその他の液体をデジタルピアノにこぼしたり、デジタルピアノから異臭や煙が出たときは、すぐに電源プラグを抜き、お買い上げ店または巻末のサービス拠点にお問い合わせください。



外装と鍵盤のお手入れ

- ・お手入れは、フェルト布などの柔らかい布で乾拭きするか、汚れのひどいときは少し水で湿らせた布で拭いてください。アルコールやシンナーなどの溶剤は、絶対に使用しないでください。
- ・市販の化学雑巾や外装手入れ剤のご使用は避けてください。



電源

- ・このデジタルピアノは日本国内仕様です。電源は必ずAC100Vでご使用ください。
- ・ご使用にならないときは、電源スイッチを切ってください。
- ・落雷の危険があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・消費電力の大きな機器と同じコンセントを使用したり、タコ足配線をするとう質が劣化したり、故障の原因となりますのでご注意ください。
- ・濡れた手で電源プラグに触れると、感電するおそれがありますので、ご注意ください。
- ・電源コードをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いてください。コードを引っ張ると断線やショートの原因となります。



接続

- ・デジタルピアノを外部機器と接続するときや接続コードをはずす時は、スピーカーやアンプの損傷を防ぐため、あらかじめ両機器の電源を切ってください。
- ・電源を入れるときや切るときは、あらかじめ両機器のボリュームを最小にしてください。



他の電気機器への影響

ラジオやテレビの近くで使用しますと、ラジオやテレビに雑音が発生することがあります。十分に離してご使用ください。

デジタルピアノは調律の必要がありません。

◆音楽を楽しむエチケット



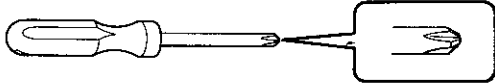
これは、日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけてしまうことがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を締めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

デジタルピアノの 組み立てかた

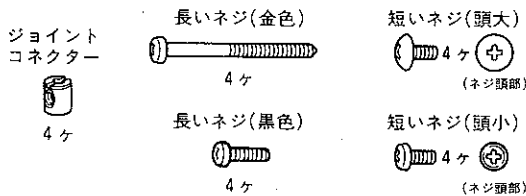
部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。

1. + (プラス) のドライバーを用意します。



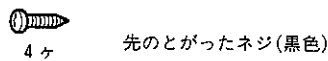
2. 箱を開けて部品を取り出します。そして部品がすべてそろっているか確かめてください。

ネジセット VJ74110



タッピンネジセット VJ76870

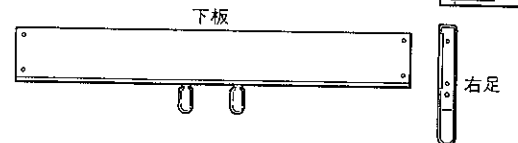
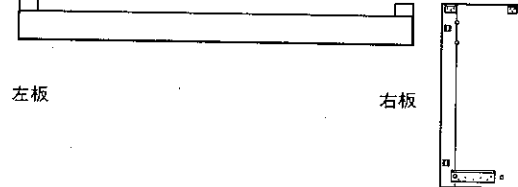
(キーカバーホルダー取付用)



本体



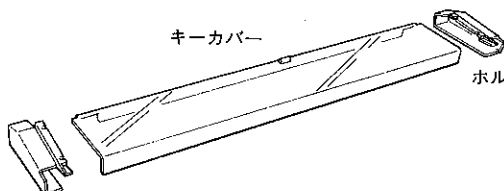
上板



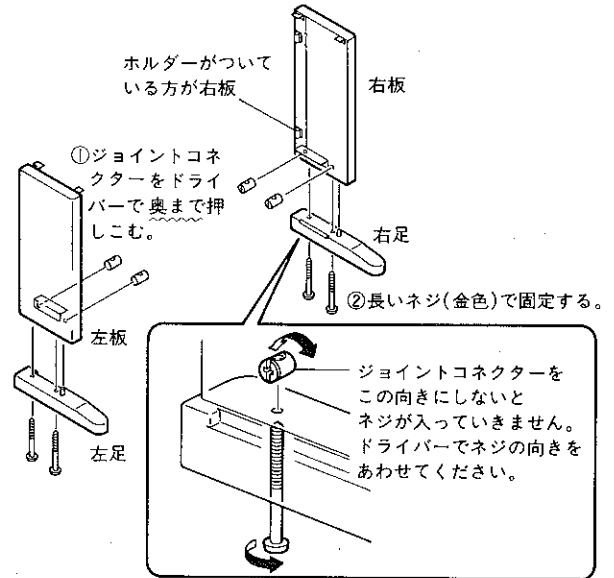
キーカバー

ホルダー右

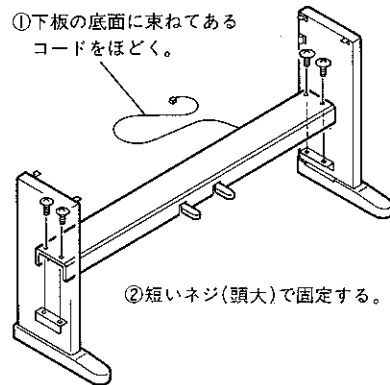
ホルダー左



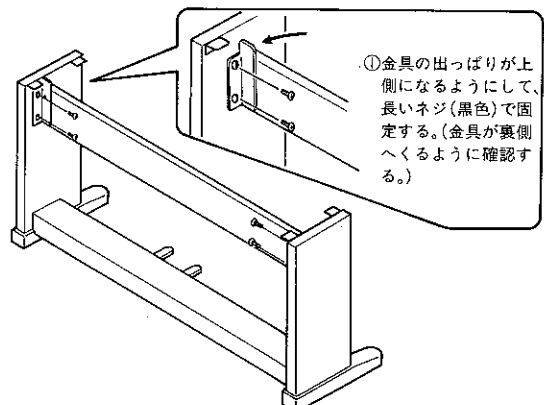
3. 右板と右足、左板と左足を固定します。



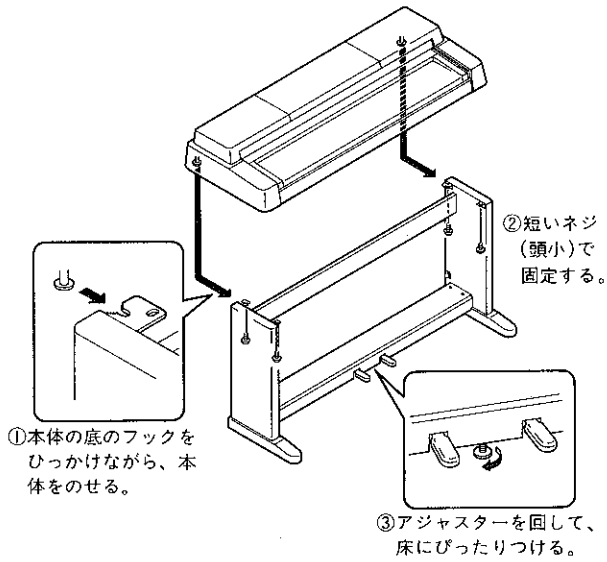
4. 下板を固定します。



5. 上板を固定します。

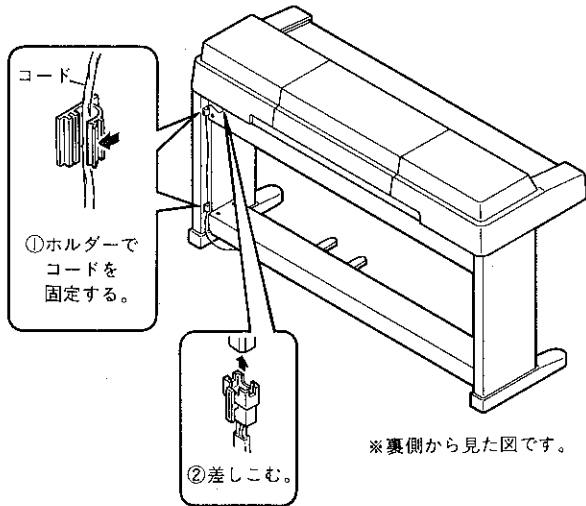


6. 本体をのせる。



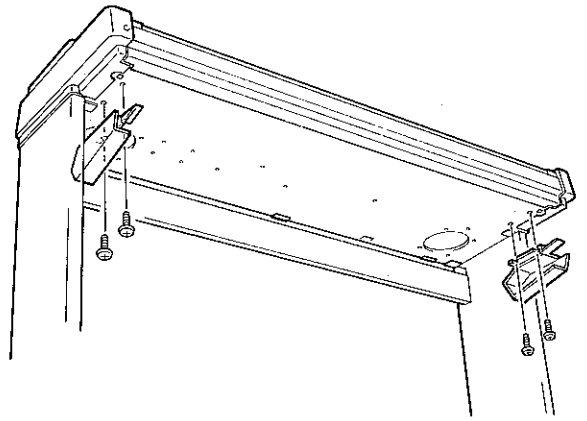
3

7. コードを接続する。



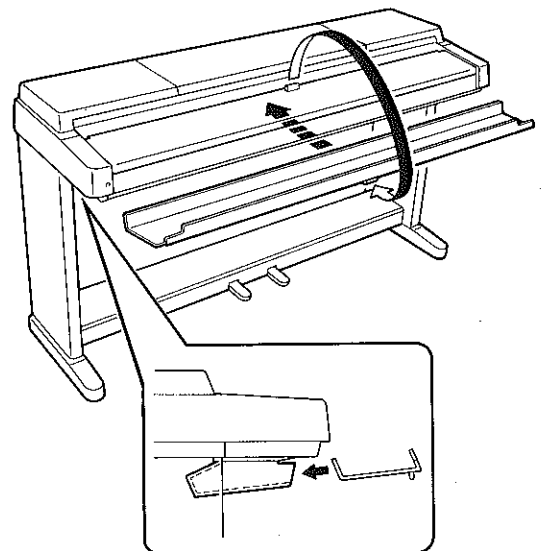
※引っ越しなどでDP-60を移動した場合は、各ネジを締め直して下さい。

キーカバーホルダーの取付けかた
裏面の下穴に合わせて、先のとがったネジ(黒色)で固定する。



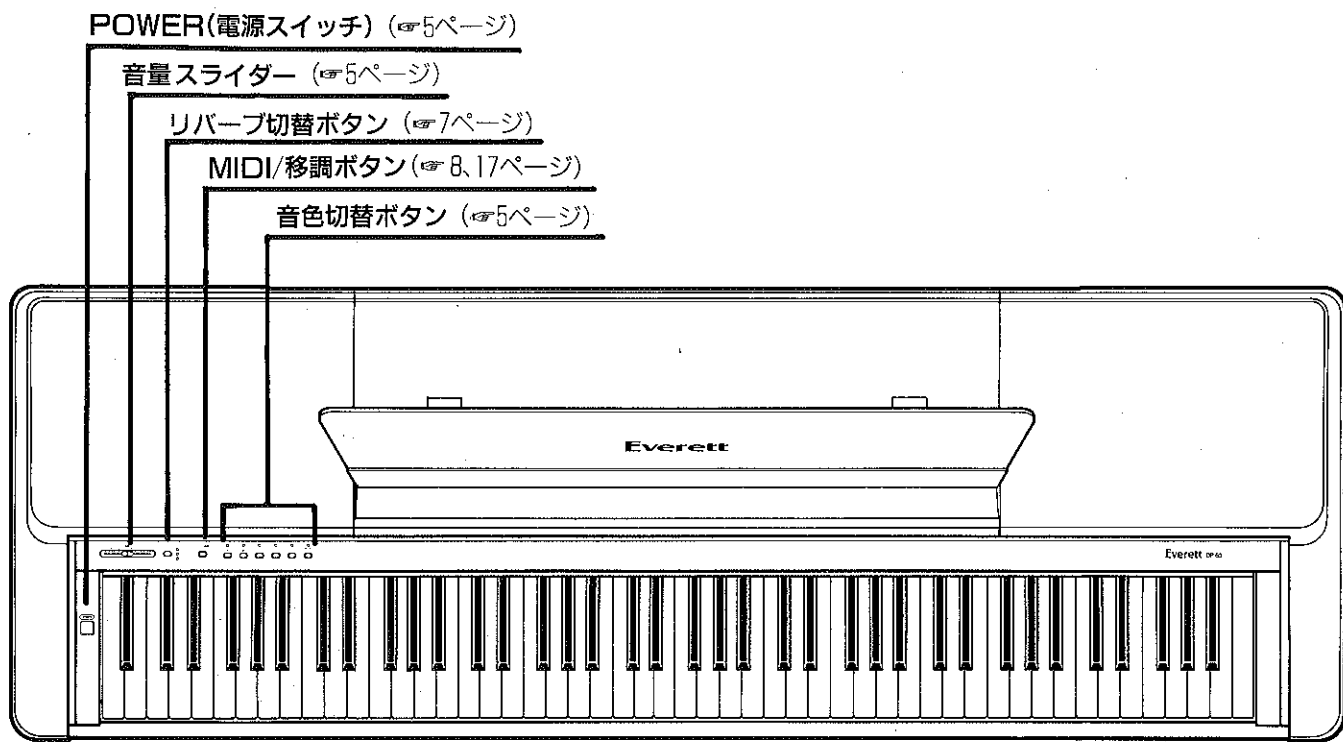
キーカバーの収納のしかた

演奏する時は、図のようにキーカバーを収納できます。



各部の 名称とはたらき

☞マークのところにくわしく説明してあります。



4

ヘッドフォン端子

ヘッドフォンを接続する端子です。ヘッドフォンを使うと、DP-60のスピーカーからは音が出なくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることはありません。

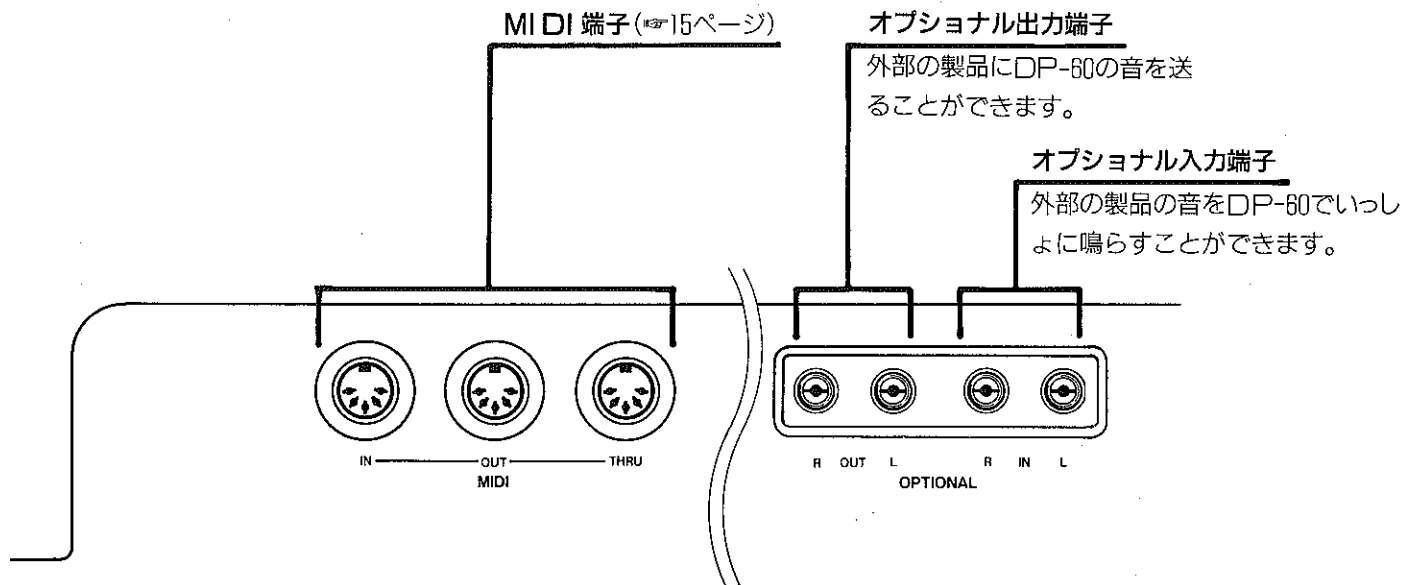
MIDI 端子 (☞15ページ)

オプション出力端子

外部の製品にDP-60の音を送ることができます。

オプション入力端子

外部の製品の音をDP-60でいっしょに鳴らすことができます。



さあ！ 弾いてみましょう。

1. 電源プラグを家庭用コンセント(AC100V)に差し込みます。

2. 電源(POWER)スイッチをオンにします。



★電源スイッチをオンにした時は、ピアノ1の音色が選ばれています。

★電源スイッチを押して約3秒くらいしてから、音を出せます。

★電源スイッチをもう一度押すと、電源が切れます。

スペーシャストーン：

ブラス(金管楽器)アンサンブル系の明るい音で、弾く強さに応じて音色変化の得られる新しいイメージの音色です。強弱をつけて演奏すれば、幅広い表現が可能です。

エレクトリックピアノ：

明るい電気ピアノの音。

ハーブシコード：

ハーブシコード(バロック感覚の楽器)の音。

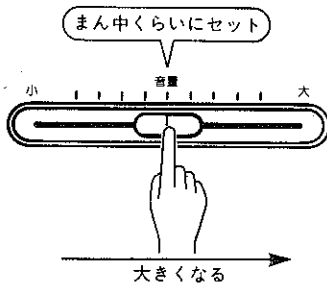
オルガン：

パイプオルガンの音。

※どの音色を選んだ場合も、押鍵を続けていてもだんだん音が小さくなっていきます。

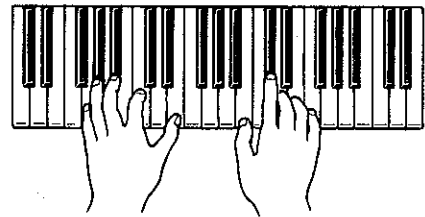
3. 音量を調整します。

5



★鍵盤を押して音を出しながら、音量スライダで調整してください。

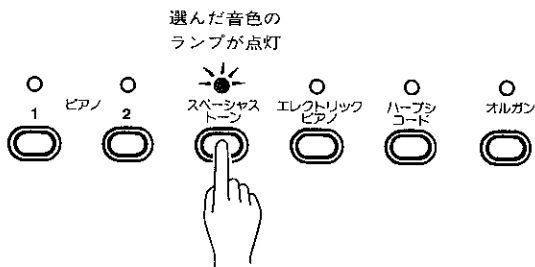
5. 弾いてみましょう。



いろいろな音色に切り替えて弾いてみましょう。

★同時発音数は16音です。(16音ポリフォニック)ただし、スペーシャストーンを選んだ場合は8音です。

4. 音色を選んでください。



★音色を2つ選んで、いっしょに鳴らすこともできます。(7ページ)

★各音色はこんなイメージです。

ピアノ1、ピアノ2：

異なった2種類のコンサートグランドピアノの音。

いろいろな効果や 機能を活用しましょう。

デモ演奏を聴いてみましょう

デモンストレーション曲が2曲入っており、いつでも自由に聴くことができます。1曲ずつ聴いたり、全曲リピートさせることもできます。

1 曲目：「即興曲」/シューベルト作品142-3番

2 曲目：「West Coast」/オリジナル

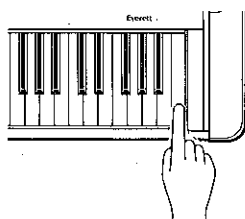
デモ演奏のスタート方法

1. MIDI/ 移調ボタンを押しながら、

MIDI/ 移調



2. いちばん高いドの音(C7の鍵盤)を押します。



押す回数によって次のようになります。

1 回押すと：1 曲目だけを再生します。

2 回押すと：2 曲目だけを再生します。

3 回押すと：1 曲目からスタートして、全曲リピートします。

★デモ演奏は、1 曲ずつ聴いた場合には、曲が終れば自動的に止まります。

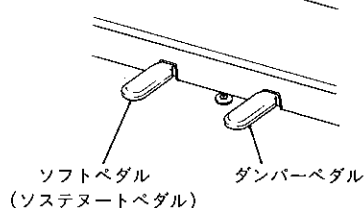
曲の途中で止めたい場合には、MIDI/ 移調ボタンを押してください。

★全曲リピートさせた場合は、止めるまで何回でも自動再生されます。止める時には、MIDI/ 移調ボタンを押してください。

★デモ演奏中は、ペダルの機能のみ動きません。

ペダル効果

スタンド部分には2つのペダルがついており、それぞれに役割があります。なお、左側のソフトペダルは希望に応じて切り替え、ソステヌートペダルとして使用することもできます。各ペダルによる効果をうまく使い分けてください。



ソフトペダルを踏むと……音の響きがやわらかくなります(ソフト効果)。

ダンパーペダルを踏むと……音に余韻がついて響きが豊かになります(ダンパー効果)。

ソフトペダルをソステヌートペダルに切り替えたうえで踏むと……ペダルを踏んだ時に押えていた鍵盤の音だけに余韻が付きまます(ソステヌート効果)。

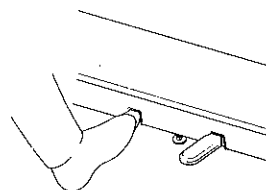
ソフト/ソステヌート切替方法

1. MIDI/ 移調ボタンを押しながら、

MIDI/ 移調



2. ソフトペダルを踏みます。



※もう一度踏むと、ソフト効果に戻ります。

★電源スイッチをオンにした時は、いつもソフト効果が選択されています。

リバーブ効果

リバーブをかけることができます。リバーブをかけると、音の響きが豊かになります。



リバーブ切替ボタンを押して、希望する響きのランプを点灯させてください。

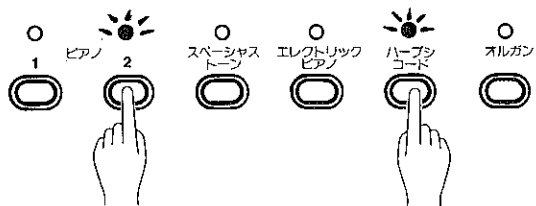
- ★ボタンを押すたびに次のように切り替わります。
 - ・ランプ消灯：リバーブはかかりません。
 - ・ペダル：ダンパーペダルを踏んだ時だけ音に余韻がつきます。
(ピアノの響板の響きの効果を作りだします。)
 - ・ルーム：響きやすい部屋の中で弾いた時のような音になります。
 - ・ホール：コンサートホールで弾いた時のような音になります。

- ★電源スイッチをオンにした時は、いつもオフ（ランプ消灯）になります。

デュアル機能

2つの音色を選んで同時に鳴らすことができます。

選んだ音色のランプが両方点灯



組み合わせたい2つの音色切替ボタンを順に押します。

- ★曲の進行に合わせて、1音色の状態と2音色の状態を使い分けると効果的です。
- ★1音色の状態に戻したい時は、通常通りに希望する音色のボタンだけを押してください。
- ★2つの音色の音量バランスは、後に押した方の音色が少し小さくなります。
- ★2音色の状態にすると、同時発音数は、通常16音発音の半分の8音になります。スペースストーンを含めた2音色にすると6音です。

移調機能

押さえる鍵盤(運指)を変えずに、歌う人の声の高さにキーを合わせることができます。(つまり、弾く高さで発音される音の高さをずらすことができます。)

★±6半音の範囲でずらすことができます。つまり“ド”の音なら高い方に最大で“ファの#”(半オクターブ)まで、低い方も最大で“ファの#”(半オクターブ)までずらすことができます。

たとえば+5半音ずらすと



のように弾いたものが



のように鳴ります。

■移調量の設定方法

1. MIDI/ 移調ボタンを押しながら、

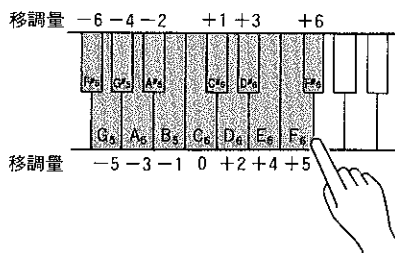
MIDI/ 移調



2. “移調量指定用鍵盤”で移調量を指定します。



たとえば“ド”の音を“ファ”の音に変えたい時は、C6よりも5半音高い鍵盤、つまりF6の鍵盤を押します。



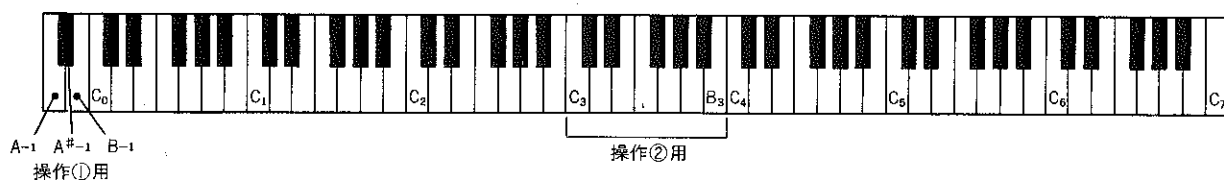
★電源スイッチをオンにした時は、いつも元の高さに戻っています。

★この機能は、合奏などで弾き方を変えずに他の楽器とキーを合わせる時にも便利です。

音程の微調整

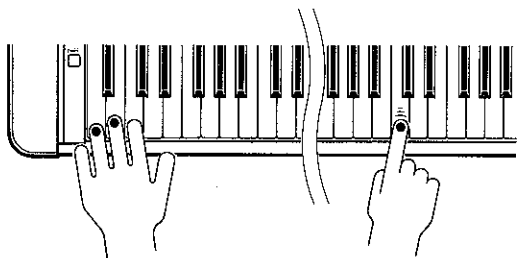
合奏の時などに、他の楽器と正確に音程を合わせることができます。つまり微妙に音程が異なる場合は、この機能を使って他の楽器と音の高さを合わせます。

■音程の合わせ方



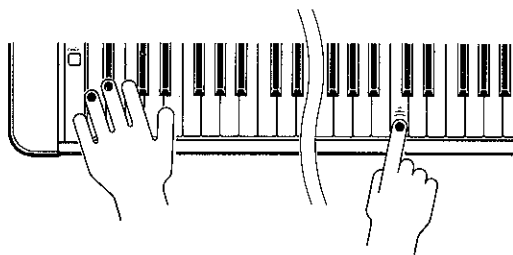
◆音程を上げる時

- ①上の図に示したA-1とB-1の鍵盤を同時に押しながら、
- ②C₃~B₃のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が上がっていきます。音を聴きながらこきざみに音程を上げて、合わせてください。



◆音程を下げる時

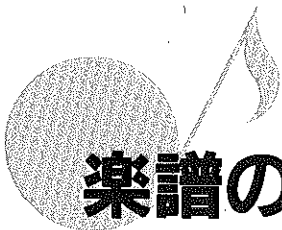
- ①上の図に示したA-1とA#-1の鍵盤を同時に押しながら、
- ②C₃~B₃のいずれかの鍵盤を押します。1回押すごとに少しずつ音程が下がっていきます。音を聴きながらこきざみに音程を下げて、合わせてください。



★電源スイッチをオンにした時は、いつも元の高さに戻っています。(A₃=440Hz)

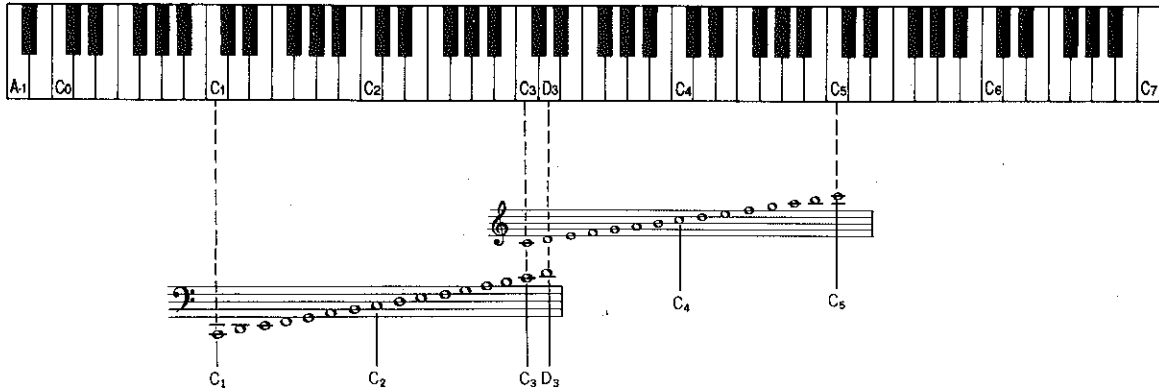
★元の高さ(A₃=440Hz)に戻す時は電源を入れなおすか、またはA-1、A#-1、B-1の3鍵盤を同時に押しながら、C₃~B₃のいずれかの鍵盤を1回押してください。

★±50セントの範囲、約1.2セントステップで設定できます。(参考：100セント=半音)



楽譜の読みかた

■鍵盤と五線譜の関係



■音符と休符の長さ

音符		休符	
音符の種類と名称	4分音符と比較した長さ	休符の種類と名称	4分音符と比較した長さ
○ 全音符	4つ分のばす	— 全体符	4つ分休む
♪ 付点2分音符	3つ分のばす	— 付点2分休符	3つ分休む
♪ 2分音符	2つ分のばす	— 2分休符	2つ分休む
♪ 4分音符		♪ 4分休符	
♪ 8分音符	♪(♪♪)=♪ 半分にする	♪ 8分休符	♪(♪♪=♪) 半分休む
♪ 16分音符	♪(♪♪♪♪)=♪ 1/4にする	♪ 16分休符	♪(♪♪♪♪=♪) 1/4だけ休む
♪♪♪ 3連音符	♪ 3等分する		

(♪♪♪ は 3等分)

■記号の意味

記号と読み方	意味	記号と読み方	意味
♯ シャープ	半音上げる	: : リピート	くりかえし。
♭ フラット	半音下げる	1. 2. : : 1番かっこ 2番かっこ	くりかえしのあと1へ。
♪ タイ	音を続ける	D.C. ダカーボ	最初からくりかえし。
♪ スラー	なめらかに	Fine D.C.	
⦿ フェルマータ	その音をのばす	D.S. ダルセーニョ	記号 ⦿ からくりかえし。
Tacet タセット	伴奏を休む	♯ Coda コーダ	くりかえしのあと ♯ から ♯ Coda へ。
Fine フィーネ	おわり	to ♯ Coda	

弾き語り講座

たった1台で、メロディ、リズム、ハーモニーと音楽の3要素を表現できるスグレた楽器、ピアノ。でも、この3要素を全部ひとりで演奏するのはとても大変なこと。やっぱりそれなりに「レッスン」ということになってしまいます。そこで、登場するのが『弾き語り』。3要素のうちメロディの部分のうち、残りのハーモニーとリズムだけをピアノで弾けばよいのです。これでかなり難しい曲も雰囲気を出しながら、やさしく演奏することができます。ピアノ弾き語りでは、おもに右手でコード(和音)を、左手でベースを担当し、右手と左手の弾くタイミングでリズムを作るというのが基本です。

STEP 1 まずは基本をしっかりと

コードには、いろいろな種類があって“C”“G”などアルファベット1文字のものをメジャーコード、“Cm”“Gm”など小さい“m”のついたものをマイナーコード、そして“C7”“G7”などをセブンスコードとよびます。メジャーコードは明るめ、マイナーコードはちょっと寂しげ、セブンスコードはハデな印象です。ベースの基本は、“Cm”“C7”だったらC音(ド)、“Gm”“G7”だったらG音(ソ)をおさえることです(これを専門用語ではルートとか根音と呼びます)。このコードとベースの弾き方を覚えると、たいいていの曲を弾くことができます。

STEP 2 フィーリングでひと工夫

“C”“G”“Am”“F”の4つのコードは、よく使われる代表的なものです。これらをマスターすると『ダイアナ』など、たくさん曲が弾けます。

EX. 1 ダイアナ

by Paul Anka

© 1957 by PAMCO music inc.
The rights for Japan assigned to musical rights (Tokyo) K.K.
日本音楽著作権協会(出)
許諾第9360055-301号

EX. 2

基本形

VARI1

VARI2

このようにCコードなら右手は“ドミソ”左手は“ド”、Amコードなら“ドミラ”と“ラ”を全音符で弾くのが、いちばんやさしい演奏法。あとは、その曲にあわせ、4分音符で刻んだり3連符で“ザザザ”とやるなどフィーリングでリズムミックスに演奏を(EX.2)。あわせて左手のほうも工夫しよう。ここまでできるようになれば、コードネームとメロディだけとか歌詞だけの楽譜を見てもいろいろなバリエーションでプレイを楽しむことができます。

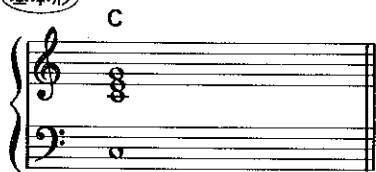
STEP 3 ちょっと高度にアルペジオ

コード演奏には、STEP 1・2でやってきたように“ジャン・ジャン・ジャン”とその和音を一度におさえる方法のほか、アルペジオという弾き方があります。アルペジオというのは、その和音につかわれている音をバラバラにして演奏することで、分散和音ともよばれています。いま

までの弾き方ではなにか物足りないナァという時やメロリーな感じの曲などで使う、ピアノ弾き語りには欠かせないテクニック。ここまでマスターすると演奏の幅がグーンと広がります。たとえば、コード演奏を下のEX.3-VAR 1・2のパターンで弾いても、また一味ちがった演奏に！

EX. 3

基本形



VAR1.1



VAR1.2



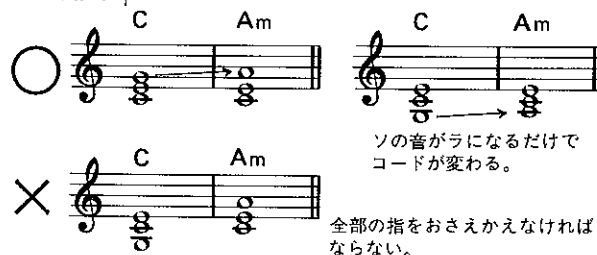
STEP 4 転回テクニックでラクラク演奏

さて、いままでは、Cコードを“ドミソ”、Amコードを“ドミラ”と覚えてきました。ところが、コードはいつもこういうふうには弾かなければイケナイというものではありません。音のつみかさねの順番をちょっと変えてCコードを“ソドミ”とか“ミソド”、Amコードを“ラドミ”“ミラド”と弾くこともできるのです。

ちょっと鍵盤をおさえてためてみましょう。“ドミソ”と“ソドミ”では響きがちがいますね。こういうふうに順番をかえる(=転回するといいます)テクニックを覚えると、雰囲気を変えられるというお楽しみメリットと同時に演奏をラクにすることができます。EX.4を見てくださ

い。このようにC→Amに変えるのも指1本をとなりに動かすだけ。しっかりマスターしてバラエティに富んだ響きの流れるような演奏をモノにしましょう。

EX. 4



●それでは、13ページの「涙のキス」で弾き語りにチャレンジしてみましょう。

[A]パート、[B]パートをそれぞれ下の楽譜のようにコード(右手)とベース(左手)を演奏します。上手に演奏できるようになったら、前ページの「弾き語り講座」を参考にして、いろいろなバリエーションにチャレンジしてください。

<p>[A]</p> <p>歌</p> <p>いますぐあつてみつめるそぶりを</p> <p>右手</p> <p>左手</p>	<p>[B]</p> <p>歌</p> <p>キス もういちど だれより</p> <p>右手</p> <p>左手</p>
---	---

練習曲

涙のキッス

作詞/作曲 桑田佳祐

1992 by Amuse, inc. & Seven Music Pub. Co., Ltd.

Intro

歌

右手

左手

A

いますぐあつてみつめるそぶりをしてみーてもー

C Em

なぜにだまつてころろはなれてしまいうー? なか

Am Em

ないでーよるがつーらくてもーあめ

Dm G7 C Am

に うたれ た — は な の よ — う に — な み だ の

Dm G7 C Dm^{onC} C C7

B

キ ャ ッ ス も う い ち ど — だ れ よ り も あ い し て る — — さ い ご の

F G Em Am F G Em Am

Ending

キ ャ ッ ス も う い ち ど だ け で も き み を む ね に だ い て

F G Em Am Dm G7 C Dm^{onC}

Cm7 Dm^{onC} C Dm^{onC} Cm7 Dm^{onC} C

rit. -----

MIDIで 楽しみましょう。

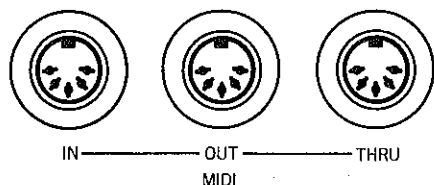
デジタルピアノはMIDI機能(MIDI端子)をもった楽器です。ここでは、MIDI端子の説明やMIDI機能を使ってできること、MIDIに関する設定方法などを順に紹介します。

MIDIとは？

MIDIという言葉はミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェース (Musical Instrument Digital Interface) の頭文字をとったもので、“ミディ”と読みます。MIDIは、2台以上のMIDI製品を接続して、それらの間で、演奏にまつわる様々なコントロールをさせようという目的で考え出された世界統一規格です。つまりMIDI機能は、他のMIDI規格の製品と接続して初めて使い道があるわけです。(MIDI製品には必ずMIDI端子があります。)

15 本機のMIDI端子

本機には、次のように3種類のMIDI端子があります。(どのMIDI製品を見ても、実はこの3種類以外にはMIDI端子はありません。)



MIDI OUT(ミディアウト)

DP-60での演奏内容等が出力されます。

MIDI IN(ミディイン)

他のMIDI製品からの演奏内容等を入力できます。

MIDI THRU(ミディスルー)

DP-60のMIDI IN端子から入力した演奏内容等が、そのまま出力されます。(つまり、さらに別の製品にも同じ内容を送ることが可能)

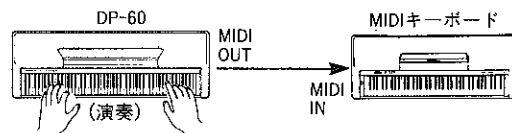
★MIDI接続には、別売のMIDIケーブルが必要です。

MIDIでできること

MIDIで何ができるかは、接続した機器との相性で決まります。簡単にいえば、両製品に共通したMIDI機能なら、とりあえず可能性ありということになります。MIDI製品と一口にいっても実に様々なものがありますので、ここでは代表的なものを選んで“できること”を紹介します。接続する製品の取扱説明書も合わせてご覧ください。

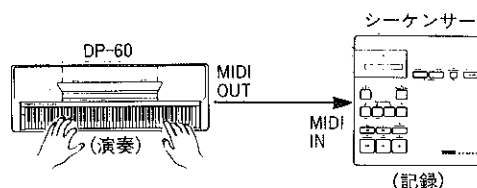
MIDI OUT端子を使ってできること

◆MIDIキーボードを接続した場合



- ★DP-60で演奏すると、接続した製品もそれ自身の音色で同時に鳴り、音に厚みができます。
- ★DP-60で音色を切り替えると、接続した製品の音色も同時に切り替わります。
- ★この他に下記のように情報を出力する機能があります。相手側が情報を受けてどう対応するかは、相手側のMIDI機能によって決まります。
 - ペダルを操作した時……ペダルを踏んだ/離したを意味する情報を出力
 - パネルデータバルクダンプリクエストを受信した時……パネル上の設定状態等を出力
- ※MIDIとは直接は関係ありませんが、相手側の音をDP-60のオプション端子(OPTIONAL IN)から入力して、DP-60のスピーカーでいっしょに鳴らすこともできます。
- ※デジタルピアノDP-60もMIDIキーボードです。したがって相手側のMIDIキーボードとして、もう1台のデジタルピアノを用いることも考えられます。

◆MIDIシーケンサーを接続した場合

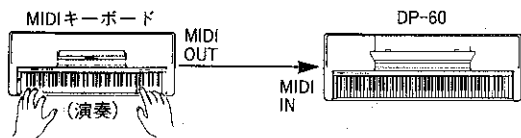


★DP-60での演奏内容を、MIDIシーケンサーに記録できます。MIDIシーケンサーに演奏内容を記録すれば、後でそれを再生して自動演奏させることができます。ここで一つ考えなければならないのは、同じように演奏内容を記憶させることができる機械にテープレコーダーというのがありますが、これとは実際には大きく異なることがある、という事実です。テープレコーダーには音そのものを記憶させますが、シーケンサーの場合は音ではなく、後で音を出すことができるように音を出すためのデータを記憶させるということです。事実、シーケンサーを再生する時には音を出す製品（MIDIキーボードなど）を使わなければ音にはなりません。

★MIDIシーケンサーには、演奏内容だけでなく、音色の切替情報やエクスルーシブ情報（後述）を記録できるものもあります。

MIDI IN端子を使ってできること

◆MIDIキーボードに接続した場合



★外部のMIDIキーボードで演奏すると、DP-60もDP-60自身の音色で同時に鳴り、音に厚みができます。

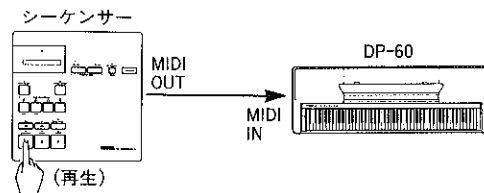
★外部のMIDIキーボードで音色を切り替えると、DP-60の音色も同時に切り替わります。

★この他に下記のような情報を入力してDP-60をコントロール可能です。

- ペダル効果をコントロールする情報
- リバーブの選択を変える情報
- 音量をコントロールする情報
- パネルデータバルクランプのリクエスト情報

※MIDIとは直接は関係ありませんが、相手側の音をDP-60のオプション端子(OPTIONAL IN)から入力して、DP-60のスピーカーでいっしょに鳴らすこともできます。

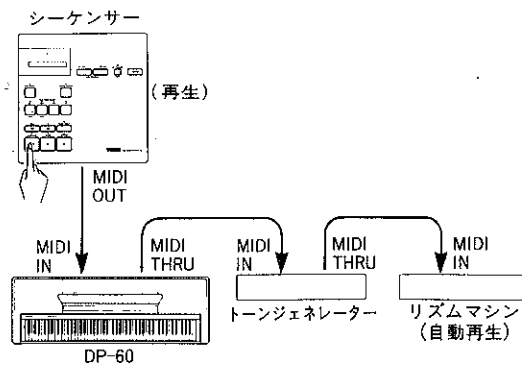
◆MIDIシーケンサーに接続した場合



★MIDIシーケンサーに記録済みの演奏内容を、DP-60の音色で再生できます。

MIDI THRU端子の使い方

MIDI THRU端子はシステム接続する時に便利です。MIDI THRU端子を使った接続として、たとえば次のような自動演奏システムが考えられます。



★このシステムは、シーケンサーを再生してDP-60などで鳴らし、それにリズムを加えて自動演奏化しようというものです。

※この図では、アンプやスピーカーを省略してあります。

MIDI関係の設定・機能

MIDIの機能を使う場合にもやはり設定が必要です。(設定しなくてもたまたま動くこともありますが……)

◆MIDIチャンネルの設定

MIDIの世界にも、テレビと同じようにチャンネルがあります。MIDIには1から16チャンネルまであり(テレビの場合は1から62ですね)、ほとんどのMIDI情報*に“この情報は〇〇チャンネルだよ”という信号が含まれています。そもそもなぜチャンネルが必要かというと、たとえばシーケンサーを再生した場合、シーケンサーのMIDI OUT端子からはいくつかのチャンネルの情報が次々に出力されます。そして1本のMIDIケーブルの中をいくつかのチャンネルの情報がいっしょに

流れます。幸いにして各情報にはMIDIチャンネルが付けられていますので、受信側の製品でチャンネルを指定してやれば、必要なそのチャンネルの情報だけを選んで受け取ることができるわけです。

そして、最も一般的なMIDIキーボードとMIDIキーボードの接続の場合にも、送信側の送信チャンネルと受信側の受信チャンネルを一致させなければ、受信側で情報を受け取ることができませんので、受信側で当然音は鳴りません。

*チャンネルの信号が含まれていると都合の悪い情報には、チャンネル信号は逆に含まれていません。

送・受信チャンネルの設定方法

①MIDI/移調ボタンを押しながら、

②該当する鍵盤を押します。

●送信チャンネル

- 1に切り替える場合.....C₁
- 2に切り替える場合.....C_{#1}
- ⋮
- 16に切り替える場合.....D_{#2}

●オムニオフ+受信チャンネル

- 1に切り替える場合.....C₃
- ⋮
- 16に切り替える場合.....D_{#4}

●オムニオン+受信チャンネル

- 1に切り替える場合.....E₄

※オムニオンは、チャンネル設定に関係なく、どのチャンネルのボイスメッセージ(鍵盤、ペダル、音色スイッチ等)でも受信する状態です。



★電源スイッチをオンにした時は、いつも送信=チャンネル1、受信=オムニオン+チャンネル1が選ばれています。

◆ローカルコントロールオン/オフの切替

ローカルコントロールオフという状態にすると、DP-60で演奏したにもかかわらずDP-60自身では鳴らなくなります。ただしMIDI OUT端子からは、オン/オフにかかわらず演奏情報が出力されます。

つまりローカルコントロールオフは、あえて外部の製

品側だけで鳴らしたい場合に、DP-60で音が出ないようにするためのものです。

オン/オフの切替方法

①MIDI/移調ボタンを押しながら、

②ピアノ1ボタンを押します。

- ローカルコントロールオフにする場合.....ピアノ1のランプを点灯させる。
- ローカルコントロールオンに戻す場合.....ピアノ1のランプを消灯させる。

★DP-60を受信側にした場合は、この設定は一切関係ありません。

★電源スイッチをオンにした時は、いつもローカルコントロールオンが選ばれています。

◆プログラムチェンジオン/オフの切替

プログラムチェンジオフという状態にすると、DP-60で音色を切り替えても、MIDI OUT端子へ音色の切替情報を出しなくなります。また、MIDI IN端子から音色切替情報を受けてもDP-60の音色は切り替わらなくなります。

DP-60だけで単独に音色を切り替えたい場合には、プログラムチェンジオフにしてください。

オン/オフの切替方法

①MIDI/移調ボタンを押しながら、

②ピアノ2ボタンを押します。

- プログラムチェンジオフにする場合.....ピアノ2のランプを点灯させる。
- プログラムチェンジオンに戻す場合.....ピアノ2のランプを消灯させる。

★電源スイッチをオンにした時は、いつもプログラムチェンジオンが選ばれています。

◆コントロールチェンジオン/オフの切替

コントロールチェンジオフという状態にすると、DP-60でペダルなどを操作しても、MIDI OUT端子へそれらの情報を出力しなくなります。また、MIDI IN端子からそれらの情報を受けても、DP-60はそれに応じなくなります。

DP-60だけで単独にペダルを操作したい場合には、コントロールチェンジオフにしてください。

オン/オフの切替方法

- ①MIDI/ 移調ボタンを押しながら、
 - ②スペーシャストーンボタンを押します。
 - コントロールチェンジオフにする場合……………
スペーシャストーンランプを点灯させる。
 - コントロールチェンジオンに戻す場合……………
スペーシャストーンランプを消灯させる。
- ★電源スイッチをオンにした時は、いつもコントロールチェンジオンが選ばれています。

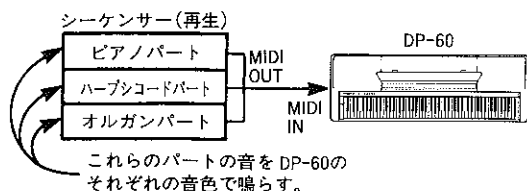
◆マルチティンバーモードオン/オフの切替

マルチティンバーモードオンという状態にすると、チャンネル1～10のどのチャンネルの情報でも受信できるようになります。

たとえばシーケンサーに記録されている複数のチャンネルの演奏情報をDP-60に受信させ、それぞれの音色で同時に鳴らしたい時に、マルチティンバーモードオンにします。

オン/オフの切替方法

- ①MIDI/ 移調ボタンを押しながら、
 - ②エレクトリックピアノボタンを押します。
 - マルチティンバーモードオンにする場合……………
エレクトリックピアノランプを点灯させる。
 - マルチティンバーモードオフに戻す場合……………
エレクトリックピアノランプを消灯させる。
- ★DP-60を送信側にした場合は、この設定は一切関係ありません。
- ★マルチティンバーモードの代表的な使用例は次のとおりです。



つまり(別々のチャンネルで)シーケンサーに記録された様々なパートの演奏を、DP-60 1台で再生できます。(つまり、アンサンブルを楽しむことができます。)

- ★電源スイッチをオンにした時は、いつもマルチティンバーモードオフが選ばれています。
- ★同時発音数は5ページを参照してください。

◆スプリット&レフトローカルオフ

スプリット&レフトローカルオフという機能を使うと、「この鍵盤から低い方の音はDP-60では鳴らないようにする。」という状態にできます。もちろん、鳴る音と鳴らない音の境にする鍵盤は自分で指定できます。これは、左手で弾いた音を外部の製品側で鳴らし、右手で弾いた音をDP-60自身で鳴らすための機能です。この時、左手の音と右手の音は異なった音色にします。たとえば左手をベース、右手をエレクトリックピアノのような組合せです。

設定方法

- ①MIDI/ 移調ボタンを押しながら、
 - ②ハーブシコードボタンを押します。すると、ハーブシコードボタンのランプが点滅しますので、そのままMIDI/移調ボタンだけは離さずに、
 - ③左手の最高音の鍵盤(鳴らないようにする一番右側の鍵盤)を押します。
ハーブシコードボタンのランプが点灯に変わり、設定完了です。
- ★左手の演奏情報はMIDIチャンネル2で送信されますので、外部の製品のMIDI受信チャンネルを2に合わせてください。
- また右手の演奏情報が“MIDIチャンネルの設定”のところで指定したMIDIチャンネルで送信されます。必要なら右手の音もさらに別の製品で、DP-60の音といっしょに鳴らすことができます。
- ★MIDIシーケンサーに、左右別々のチャンネルで記録することも可能です。
- ★もとの状態に戻す時は、次のようにしてください。
- ①MIDI/ 移調ボタンを押しながら、
 - ②ハーブシコードボタンを押し、ハーブシコードのランプを消灯させます。
- ★DP-60を受信側にした場合は、この機能は一切関係ありません。
- ★電源スイッチをオンにした時は、いつももとの状態に戻っています。

◆スプリット&ライトローカルオフ

前項のスプリット&レフトローカルオフは左手の音が出ないようにする機能でしたが、この機能は逆に右手の音が出ないようにする機能です。機能の使い道は前項と同様です。

設定方法

- ①MIDI/ 移調ボタンを押しながら、
 - ②オルガンボタンを押します。すると、オルガンボタンのランプが点滅しますので、そのままMIDI/移調ボタンだけは離さずに、
 - ③左手の最高音の鍵盤(鳴るようにする一番右側の鍵盤)を押します。
オルガンボタンのランプが点灯に変わり、設定完了です。
- ★左手の演奏情報はMIDIチャンネル2で送信され、右手の演奏情報は“MIDIチャンネルの設定”のところで指定したMIDIチャンネルで送信されます。外部のMIDI製品の受信チャンネルは、DP-60の送信チャンネルに合わせてください。
- ★もとの状態に戻す時は、次のようにしてください。
- ①MIDI/ 移調ボタンを押しながら、
 - ②オルガンボタンを押し、オルガンのランプを消灯させます。
- ★DP-60を受信側にした場合は、この機能は一切関係ありません。
- ★電源スイッチをオンにした時は、いつももとの状態に戻っています。

MIDIデータフォーマット

1. 送信データ

1-1. チャンネルインフォメーション

◆チャンネルボイスメッセージ

①ノートオン/オフ：鍵盤を押した時に送信します。

```
ステータス 1001nnnn(9nH) n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
ノートNo. 0kkkkkkk k=21(A1)~108(G7)
ベロシティ 0vvvvvvv v=0~127(1~127: キーオン, 0: キーオフ)
```

②コントロールチェンジ：各ペダル操作をした時に送信します。

```
ステータス 1011nnnn(8nH) n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
コントロールNo. 0ccccccc c=64(ダンパー), 66(ソステヌート), 67(ソフト)
コントロール値 0vvvvvvv ダンパー/ソステヌート/ソフト v=0~63(オフ),
64~127(オン)
```

③プログラムチェンジ：音色を切り替えた時に送信します。

```
ステータス 1100nnnn(CnH) n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
プログラムNo. 0ppppppp p=0(ピアノ1), 1(ピアノ2), 2(スベークエストーン),
3(エレキトリックピアノ), 4(ハーブコード), 5(オルガン)
```

1-2. システムインフォメーション

◆システムリアルタイムメッセージ

①アクティブセンシング：約200msecごとに1回送信します。

```
ステータス 11111110(FEH)
```

◆システムエクスクルーシブメッセージ

①パネルデータバルクダンプ：パネルデータバルクダンプリクエストを受信した時に送信します。

```
ステータス 11110000(F0H) "システムエクスクルーシブ"
ID No. 01000011(43H) "ヤマハ"
サブステータス 0000nnnn(0nH) n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
フォーマットNo. 01111100(7CH) "パネルデータバルクダンプ"
バイトカウント 00000000(00H)
バイトカウント 00011001(19H)
バイトカウント 01010011(53H)
01001011(4BH)
00100000(20H)
00100000(20H)
00100000(20H)
0010010(32H)
00110001(31H)
00110111(37H)
00110011(33H)
00100000(20H)
00100000(20H)
バージョンNo. 00110000(30H)
00110000(30H)
データ 0ddddddd
データ 0ddddddd
チェックサム 0eeeeeee
EOX 11110111(F7H)
```

パネルデータ

②モデルIDコードバルクダンプ：モデルIDコードバルクダンプリクエストを受信した時に送信します。

```
ステータス 11110000(F0H) "システムエクスクルーシブ"
ID No. 01000011(43H) "ヤマハ"
サブステータス 0000nnnn(0nH) n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
フォーマットNo. 01111101(7DH) "モデルIDコードバルクダンプ"
バイトカウント 00000000(00H)
バイトカウント 00010000(10H)
01010011(53H)
01001011(4BH)
00100000(20H)
00100000(20H)
0010010(32H)
00110001(31H)
00110111(37H)
00110011(33H)
00100000(20H)
00100000(20H)
バージョンNo. 00110000(30H)
00110000(30H)
00100000(20H)
00100000(20H)
00100000(20H)
00100000(20H)
00100000(20H)
00100000(20H)
00100000(20H)
チェックサム 0eeeeeee
EOX 11110111(F7H)
```

③リバーブ：リバーブ切替ボタンを切り替えたときに送信します。

```
ステータス 11110000(F0H) "システムエクスクルーシブ"
YAMAHA ID No. 01000011(43H) "ヤマハ"
モデルID 01110011(73H)
00100100(24H)
特殊操作子 00010001(11H)
チャンネル 0000nnnn(0nH) n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
コントロールNo. 01011001(59H)
コントロール値 0vvvvvvv v=0(OFF), 1(PEDAL), 2(ROOM), 3(HALL)
EOX 11110111(F7H)
```

④デュアル：音色を2つ選んだ時に送信します。

```
ステータス 11110000(F0H) "システムエクスクルーシブ"
YAMAHA ID No. 01000011(43H) "ヤマハ"
モデルID 01110011(73H)
00100100(24H)
特殊操作子 00010001(11H)
チャンネル 0000nnnn(0nH) n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
コントロールNo. 01011010(5AH)
コントロール値 0vvvvvvv v=0(OFF), 1(DUAL)
EOX 11110111(F7H)
```

⑤デュアル演奏での音色：組み合わせる2つの音色のうち、先に選んだ方の音色切替ボタンを押した時に送信します。

```
ステータス 11110000(F0H) "システムエクスクルーシブ"
YAMAHA ID No. 01000011(43H) "ヤマハ"
モデルID 01110011(73H)
00100100(24H)
特殊操作子 00010001(11H)
チャンネル 0000nnnn(0nH) n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
コントロールNo. 01011100(5CH)
コントロール値 0vvvvvvv v=0(ピアノ1), 1(ピアノ2), 2(スベークエストーン),
3(エレキトリックピアノ), 4(ハーブコード), 5(オルガン)
EOX 11110111(F7H)
```

2. 受信データ

2-1. チャンネルインフォメーション

◆チャンネルボイスメッセージ

- ①ノートオン/オフ：ノートNo.によって発音の音程が
まり、ベロシティによって音量お
よび音色が決まります。

ステータス	1001nnnn(9nH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
ノートNo.	0kkkkkkk	k=21(A ₁)~108(C ₇)
ベロシティ	0vvvvvvv	v=0~127(1~127:キーオン, 0:キーオフ)

- ②ノートオフ：ノートオフをステータス8nHで送り出す
機器との対応のためです。

ステータス	1000nnnn(8nH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
ノートNo.	0kkkkkkk	k=21(A ₁)~108(C ₇)
ベロシティ	0vvvvvvv	v=無視します

- ③コントロールチェンジ：メッセージに従って各対応を
します。

ステータス	1011nnnn(8nH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
コントロールNo.	0ccccccc	c=7(ボリューム), 11(エクスプレッション), 64(ダンパー), 66(ソステヌート), 67(ソフト)
コントロール値	0vvvvvvv	ボリューム v=0(最小), 111(-3dB), 127(最大) エクスプレッション v=0(最小), 111(-3dB), 127(最大) ダンパー/ソステヌート/ソフト v=0~63(オフ), 64~127(オン)

- ④プログラムチェンジ：プログラムNo.によって音色が決
まります。なお、指定番号より
プログラムNo.の大きいメッセ
ージは無視します。

ステータス	1100nnnn(8nH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
プログラムNo.	0ppppppp	p=0(ピアノ1), 1(ピアノ2), 2(スペーシャーストーン), 3(エレクトリックピアノ), 4(ハーブコード), 5(オルガン)

◆チャンネルモードメッセージ

メッセージに従って各対応をします。

ステータス	1011nnnn(8nH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
コントロールNo.	0ccccccc	c=121(リセットオールコントローラー*) 122(ローカルコントロール), 123(オールノートオフ*), 124(オムニオフ/オールノートオフ), 125(オムニオン/オールノートオフ)
コントロール値	0vvvvvvv	ローカルコントロール v=0(オフ), 127(オン) ローカルコントロール以外 v=0

- *リセットオールコントローラーおよびオールノートオ
フは、オムニオフの時のみ認識します。

2-2. システムインフォメーション

◆システムリアルタイムメッセージ

- ①アクティブセンシング：受信すると、センシングを開
始します。その後400msecの
間ステータスもデータもこ
ない場合には、発音を強制的に
停止させます。

ステータス	11111110(FEH)
-------	---------------

◆システムエクスクルーシブメッセージ

- ①パネルデータバルクダンプリクエスト：このメッセ
ージを受信する
と、パネルデ
ータを送信し
ます。

ステータス	11110000(F0H)	"システムエクスクルーシブ"
ID No.	01000011(43H)	"ヤマハ"
サブステータス	0010nnnn(2nH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
フォーマットNo.	01111100(7CH)	"パネルデータバルクダンプリクエスト"
EOX	11110111(F7H)	

- ②モデルIDコードバルクダンプリクエスト：このメッセ
ージを受信す
ると、モデル
IDコードを送
信します。

ステータス	11110000(F0H)	"システムエクスクルーシブ"
ID No.	01000011(43H)	"ヤマハ"
サブステータス	0010nnnn(2nH)	n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
フォーマットNo.	01111101(7DH)	"モデルIDコードバルクダンプリクエスト"
EOX	11110111(F7H)	

- ③パネルバルクデータ：このメッセージを受信すると、
パネル上の各設定が変わります。
(ボリュームは動きません。)
データについては、送信データ
の項を参照。

- ④マルチティンバーモードオフ：このメッセージを受信
すると、マルチティ
ンバーモードオフになり
ます。

ステータス	11110000(F0H)	"システムエクスクルーシブ"
YAMAHA ID No.	01000011(43H)	"ヤマハ"
モデルID	01110011(73H) 00100100(24H)	
データ	00010011(13H)	
EOX	11110111(F7H)	

- ⑤マルチティンバーモードオン：このメッセージを受信すると、マルチティンバーモードオンになります。

```
ステータス 11110000(F0H) "システムエクスクルーシブ"
YAMAHA ID No. 01000011(43H) "ヤマハ"
モデルID 01110011(73H)
           00100100(24H)
データ 00010101(15H)
EOX 11110111(F7H)
```

- ⑥受信チャンネルの切替：このメッセージを受信すると、受信チャンネルの設定が変わります。

```
ステータス 11110000(F0H) "システムエクスクルーシブ"
YAMAHA ID No. 01000011(43H) "ヤマハ"
モデルID 01110011(73H)
           00100100(24H)
サブステータス 0111nnnn(7nH) n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
EOX 11110111(F7H)
```

- ⑦リバーブ：このメッセージを受信すると、リバーブの設定が変わります。

```
ステータス 11110000(F0H) "システムエクスクルーシブ"
YAMAHA ID No. 01000011(43H) "ヤマハ"
モデルID 01110011(73H)
           00100100(24H)
特殊操作子 00010001(11H)
チャンネル 0000nnnn(0nH) n=0(チャンネルNo.1)~15(チャンネルNo.16)
コントロールNo. 01011001(59H)
コントロール値 0vvvvvvv v=0(OFF), 1(PEDAL), 2(ROOM), 3(HALL)
EOX 11110111(F7H)
```

- ⑧デュアル：このメッセージを受信すると、デュアル演奏モードになります。データについては、送信データの項を参照。

- ⑨デュアル演奏での音色：このメッセージを受信すると、組み合わせている音色の設定が変わります。データについては、送信データの項を参照。

MIDIインプリメンテーションチャート

Date: 1993.6.14
Version:1.0

ファンクション...	送	信	受	信	備	考
ベーシック 電源ON時 チャンネル 設定可能	1チャンネル 1~16チャンネル		1チャンネル 1~16チャンネル			
モード 電源ON時 メッセージ 代用	モード 3 × *****		モード 1 オムニ・オン、オムニ・オフ ×			
ノート ナンバー 音 域	21~108 *****		21~108 21~108			
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	○ 9nH、V=1~127 × 9nH、V=0		○ V=1~127 ×			
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×		× ×			
ピッチ・ベンダー	×		×			
コントロール チェンジ	07 × 11 × 64 ○ 66 ○ 67 ○ 121 ×		○ ○ ○ ○ ○ ○		※1	ボリューム エクスプレッション ダンパーペダル ソステヌートペダル ソフトペダル リセットオールコントローラー
プログラム チェンジ 設定可能範囲	0~5 *****		0~5 0~5			
エクスクルーシブ	○		○			
コモン ソング・ポジション ソング・セレクト チェーン	× × ×		× × ×			
リアル クロック タイム コマンド	× ×		× ×			
その他 ローカル ON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×		○ ○ (123~125) ○ ×		※2	
備 考	※1 121はマルチ・ティンバーモードオン時、又はオムニオフ時のみ受信 ※2 123はマルチ・ティンバーモードオン時、又はオムニオフ時のみ受信					

23

仕様

- 鍵盤：88鍵(A₁~C₇)イニシャルタッチ付
- 音色：ピアノ1、ピアノ2、スペースストーン、エレクトリックピアノ、ハーブシロード、オルガン
- 効果・機能：リバーブ、移調、音程の微調整、デュアル
- コントロール：電源スイッチ、音量、ソフト/ソステヌートペダル、ダンパーペダル
- 付属端子：ヘッドフォン端子、オプション端子
IN(L, R)、OUT(L, R)、
MIDI端子(IN, OUT, THRU)
- メインアンプ：15W×2
- スピーカー：16cm×2
- 定格電源：AC100V 50/60Hz
- 消費電力：35W
- 外装：メタリックブラック仕上げ
間口…141.8cm、奥行…46.7cm
高さ…80.4cm、重量…46kg
- 装備：折りたたみ式譜面立て
- 付属品：キーカバー、椅子、ヘッドフォン

サービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

- 本機の保証は、保証書によりご購入から満1ヵ年です。
(日本国内のみ有効)
- 保証期間の1ヵ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にご連絡ください。責任を持って修理調整をいたします。

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、ご住所、電話番号などをハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によって、お約束を変更しなければならないようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます。)

■エベレットホットライン

特販営業部
エベレット営業課
☎フリーダイヤル0120-431-808

■ヤマハ電気音響製品サービス拠点

[修理受付および修理品お預り窓口]

北海道サービスセンター	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目1-50(ヤマハセンター内) TEL.011-513-5036
仙台サービスセンター	〒983 仙台市若林区卸町5-7 (仙台卸商共同配送センター3F) TEL.022-236-0249
新潟サービスセンター	〒950 新潟市万代1-4-8 (シルバーボールビル2F) TEL.025-243-4321
東京サービスセンター	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 (龍名館ビル4F) TEL.03-3255-2241
首都圏サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL.044-434-3100
浜松サービスセンター	〒435 浜松市上西町911 (ヤマハ(株)宮竹工場内) TEL.053-465-6711
名古屋サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 (ヤマハ(株)名古屋流通センター3F) TEL.052-652-2230
大阪サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16 (ヤマハ(株)千里丘センター内) TEL.06-877-5262
四国サービスセンター	〒760 高松市丸亀町8-7 (ヤマハ(株)高松店内) TEL.0878-22-3045
広島サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原6-14-14 TEL.082-874-3787
九州サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092-472-2134
(本 社)	
カスタマーサービス部	〒435 浜松市上西町911 (ヤマハ(株)宮竹工場内) TEL.053-465-1158

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

特販営業部
エベレット営業課
〒104 東京都中央区銀座7-9-18
パールビル8F
☎フリーダイヤル0120-431-808

YAMAHA
YAMAHA CORPORATION
ヤマハ株式会社